

2017年12月インターンシップ希望学生傾向調査

調査概要

【調査1:インターンシップ希望学生】

調査対象: インターンシップを希望する学生が実施した性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年9月25日～2017年12月13日

調査方法: Webによる受検

サンプル数:1553名

【調査2:社会人転職希望者】

調査対象: 転職活動において実施された性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年9月25日～2017年12月13日

調査方法: Webまたはマークシートによる受検

サンプル数:1500名

調査目的:インターンシップを希望する学生の性格・価値観の特性を分析し、公表しています。この調査結果により、企業はインターンシップ希望者の特性を把握することができ、採用時のミスマッチを減らす一助となります。

調査結果

<インターンシップ希望学生・社会人転職希望者傾向>

インターンシップ希望学生は「変革性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」などが高い

インターンシップ希望学生は、同受検時期の社会人転職希望者と比べて「変革性」(変化を好む)、「意思伝達力」(考えを伝える)、「決断性」(決断が速い)、ストレス耐性の「理想と現実とのギャップ」(自分の描いていたものと現実との差を受け入れる)などは高く、「協調性」(周囲との調和を好む)、「対人調和力」(相手に配慮できる)、ストレス耐性の「評価・評判」(他者からの評価を受け入れる)などは低い結果になった。

<インターンシップ経験有無別傾向>

インターンシップ経験ありの学生は「主体性」「論理的表現力」「仕事の負荷量」、エネルギー量全般などが高い

インターンシップ経験がある学生は、「主体性」(自ら動く)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、ストレス耐性の「仕事の負荷量」(仕事量の多さや責任ある仕事を受け入れる)、エネルギー量全般などが高い結果になった。インターンシップ経験がない学生は、「持続性」(粘り強くやり続ける)、「協調性」などが高い結果になった。

<インターンシップ希望学生の卒業見込み年別傾向>

2019年卒業見込みのインターンシップ希望学生は「変革性」「行動性」「評価・評判」などが高い

インターンシップ希望学生の卒業見込み年別傾向を見ると、2019年卒業見込みのインターンシップ希望学生は「変革性」「行動性」(すぐ動く)、ストレス耐性の「評価・評判」、キャリアタイプ指向性の「チャレンジャー」などが高く、2020年卒業見込みの学生は「持続性」、キャリアタイプ指向性の「私生活重視」「安定志向」などが高い結果になった。

<インターンシップ希望学生の男女別傾向>

インターンシップ希望学生の男性は「主体性」「論理的表現力」などが高く、女性は「協調性」「対人調和力」などが高い

インターンシップ希望学生の男女別傾向を見ると、男性は「主体性」「論理的表現力」、ストレス耐性の「評価・評判」、エネルギー量全般などが高く、女性は「協調性」「対人調和力」、ストレス耐性の「人付き合い」(周囲の人の考えや気持ちを受け入れる)、キャリアタイプ指向性の「私生活重視」「安定志向」などが高い結果になった。

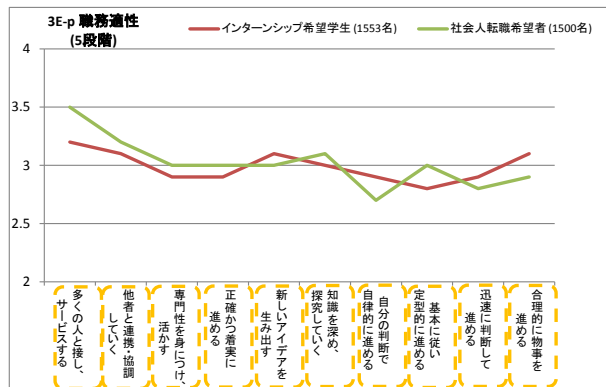
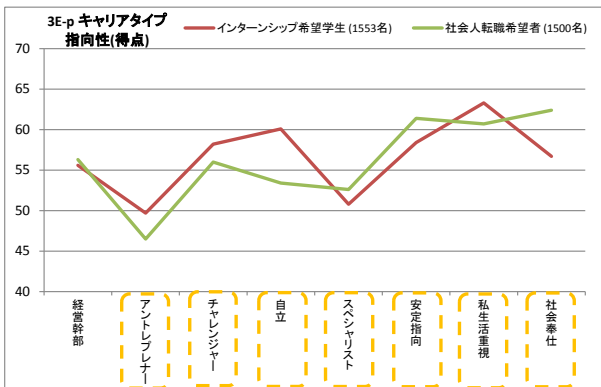
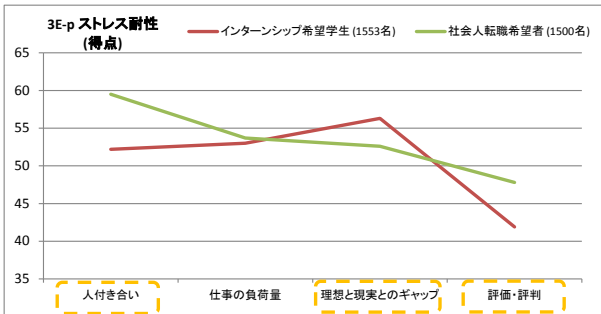
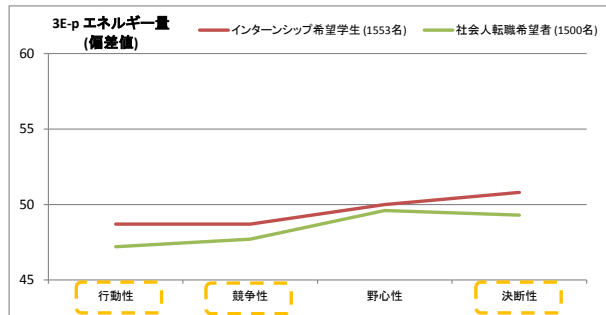
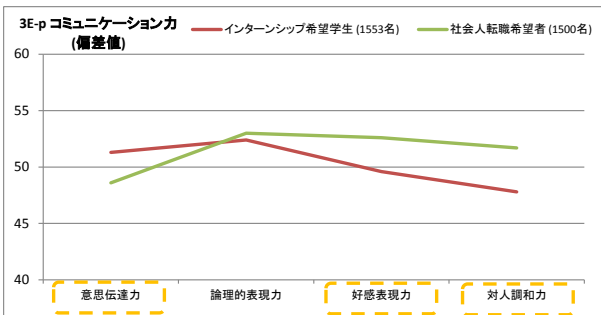
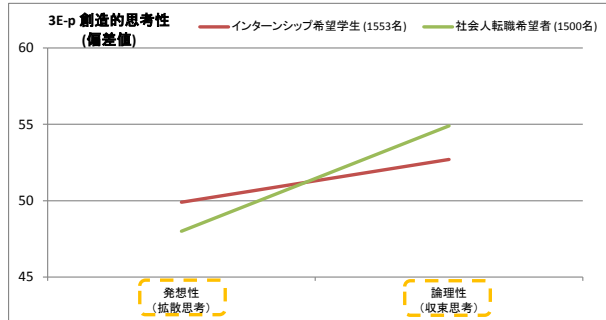
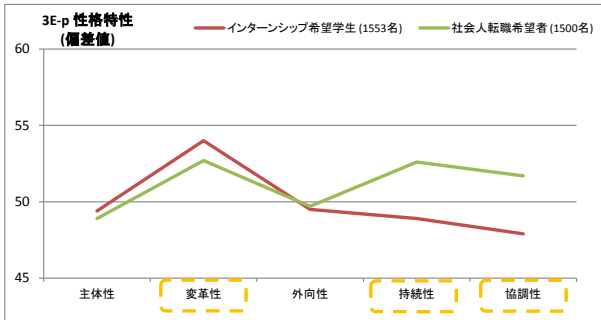
<インターンシップ希望学生の文理別傾向>

インターンシップ希望学生において、文系は「人付き合い」、理系は「論理的表現力」などが高い

インターンシップ希望学生の文理別傾向を見ると、文系はストレス耐性の「人付き合い」が高く、理系は「論理性」(収束思考)、「論理的表現力」、職務適性の「知識を深め、探求していく」「合理的に物事を進める」が高い結果になった。

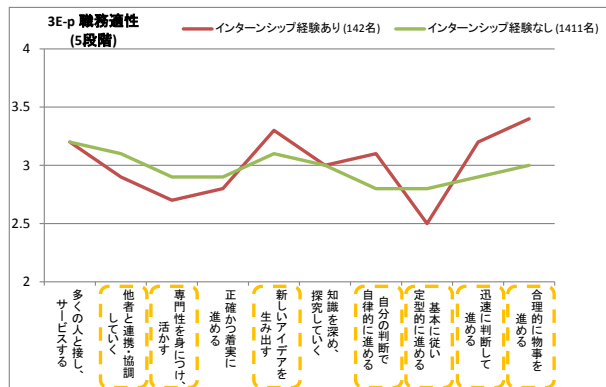
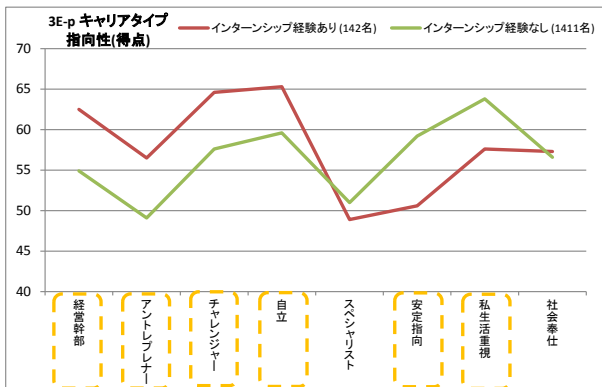
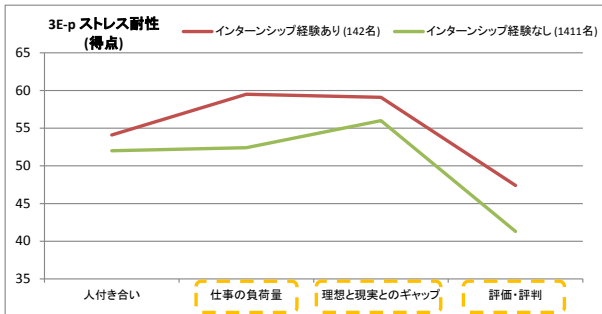
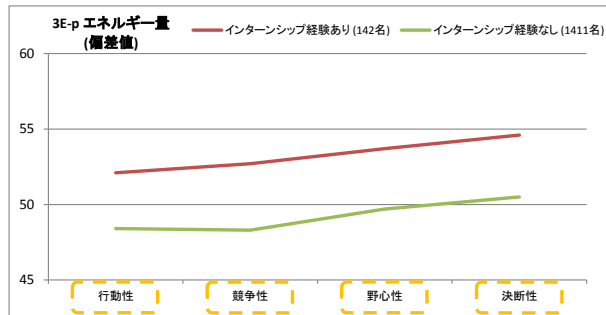
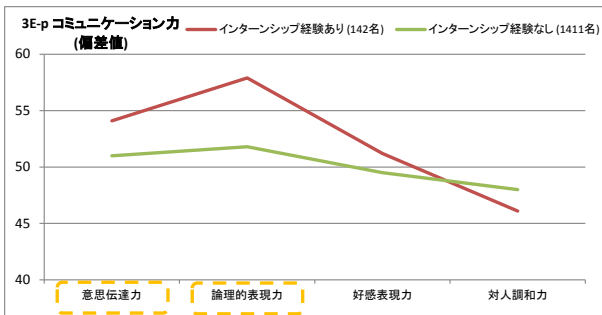
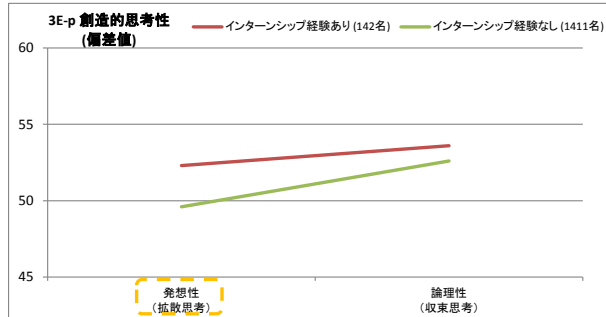
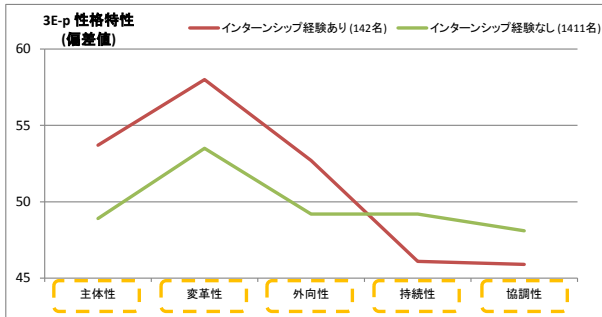
インターンシップ希望学生は「変革性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」などが高い

インターンシップ希望学生は、同受検時期の社会人転職希望者と比べて「変革性」(変化を好む)、「意思伝達力」(考えを伝える)、「決断性」(決断が速い)、ストレス耐性の「理想と現実とのギャップ」(自分の描いていたものと現実との差を受け入れる)などは高く、「協調性」(周囲との調和を好む)、「対人調和力」(相手に配慮できる)、ストレス耐性の「評価・評判」(他者からの評価を受け入れる)などは低い結果になった。



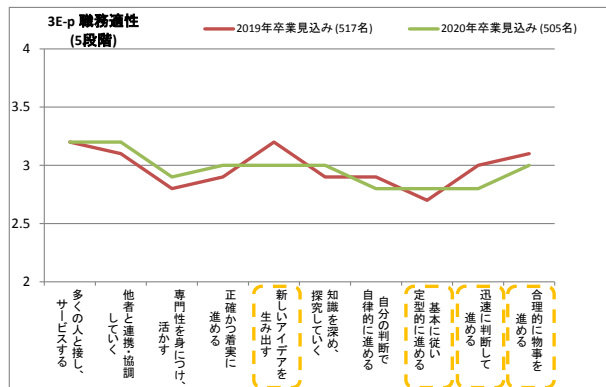
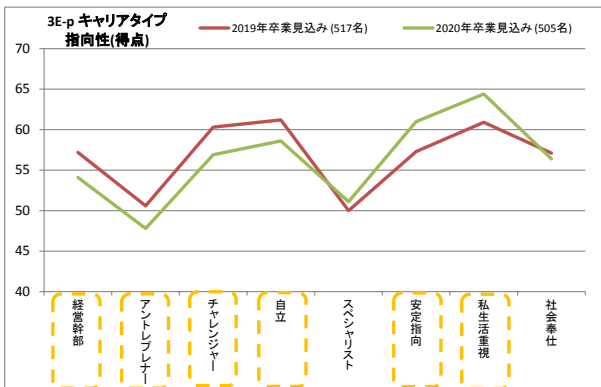
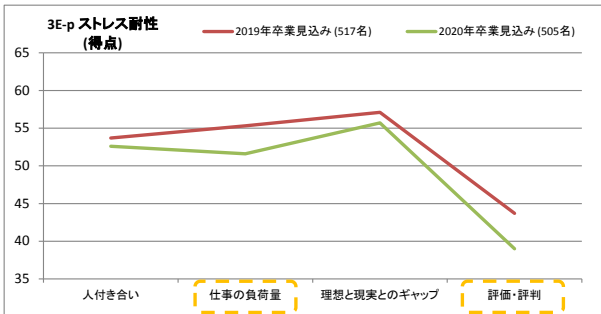
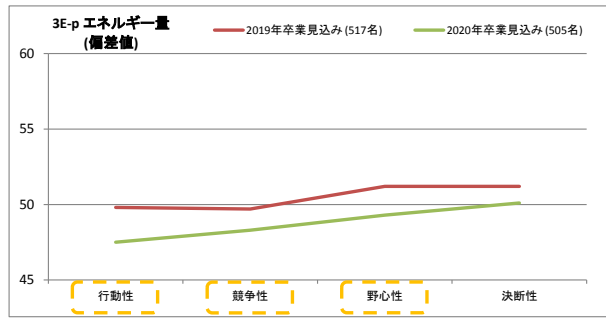
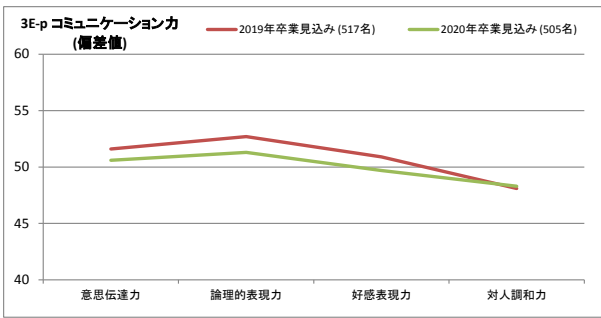
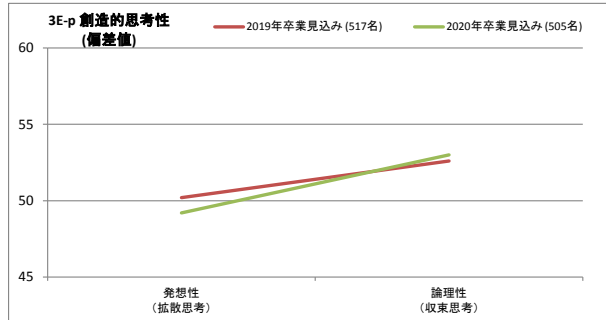
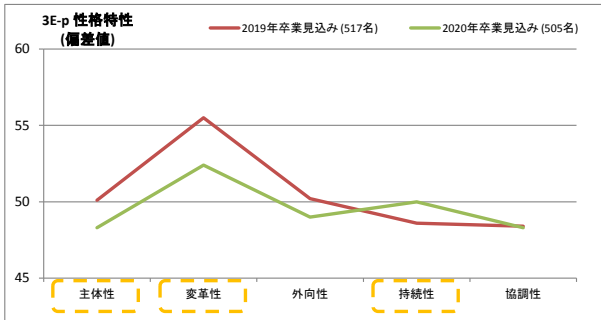
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ経験ありの学生は「主体性」「論理的表現力」「仕事の負荷量」、エネルギー量全般などが高い
 インターンシップ経験がある学生は、「主体性」(自ら動く)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、ストレス耐性の「仕事の負荷量」(仕事量の多さや責任ある仕事を受け入れる)、エネルギー量全般などが高い結果になった。インターンシップ経験がない学生は、「持続性」(粘り強くやり続ける)、「協調性」などが高い結果になった。



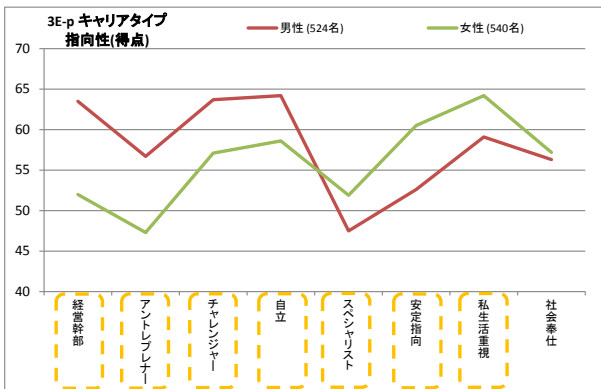
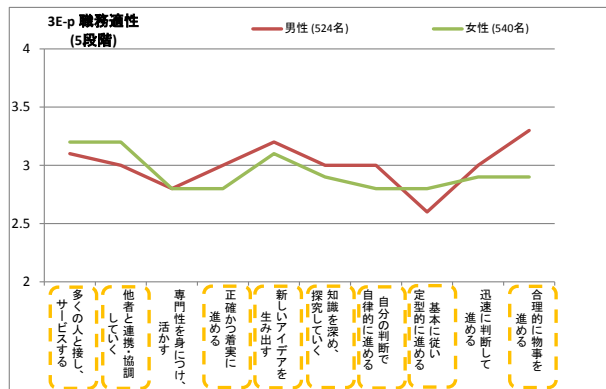
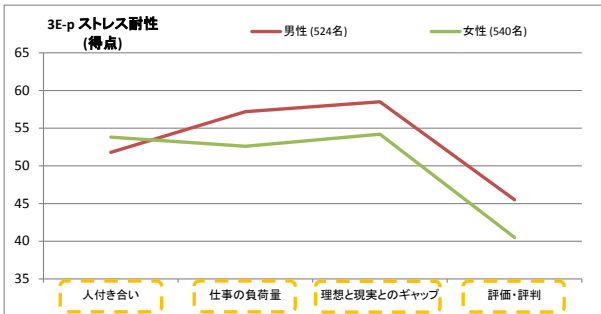
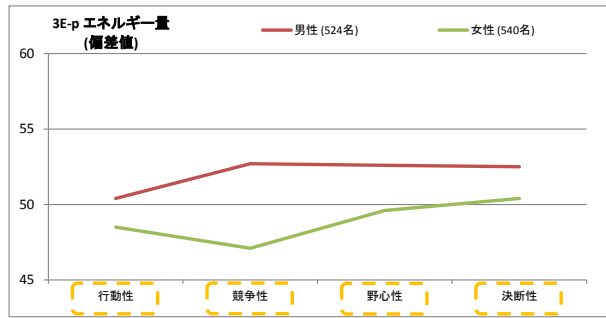
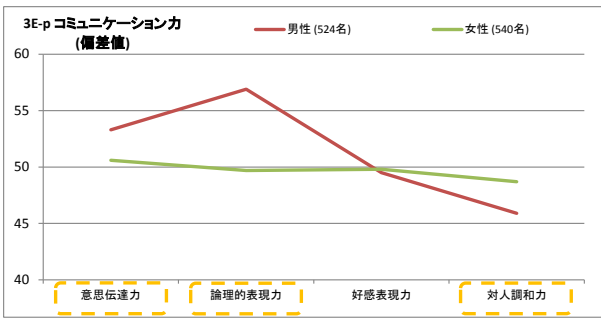
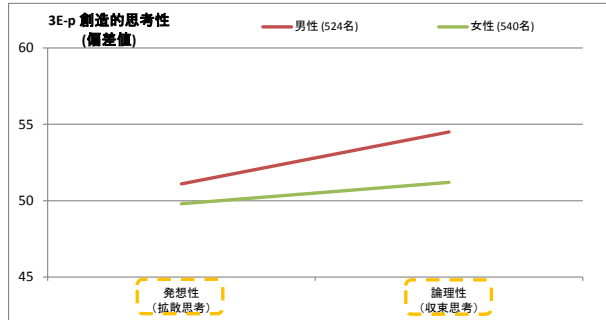
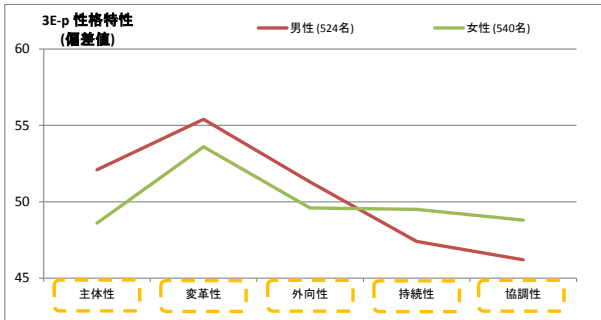
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

2019年卒業見込みのインターンシップ希望学生は「変革性」「行動性」「評価・評判」などが高い
 インターンシップ希望学生の卒業見込み年別傾向を見ると、2019年卒業見込みのインターンシップ希望学生は「変革性」、「行動性」(すぐ動く)、ストレス耐性の「評価・評判」、キャリアタイプ指向性の「チャレンジャー」などが高く、2020年卒業見込みの学生は「持続性」、キャリアタイプ指向性の「私生活重視」、「安定志向」などが高い結果になった。



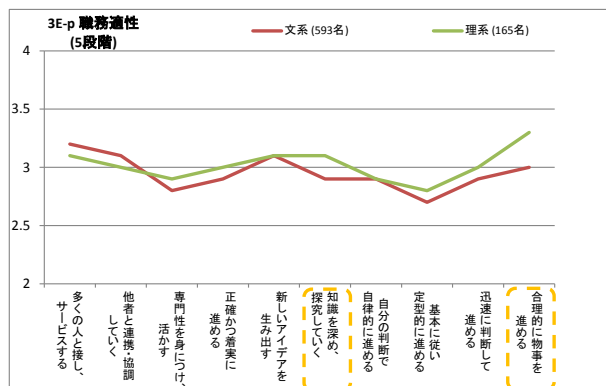
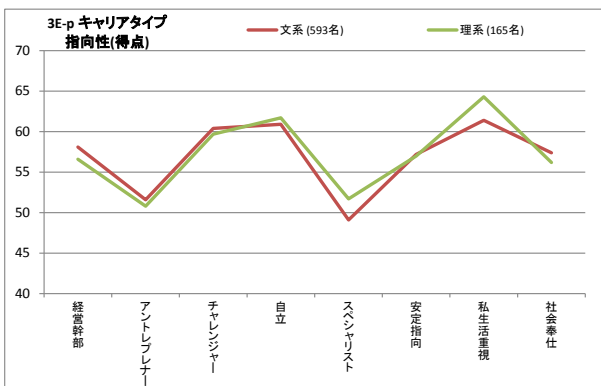
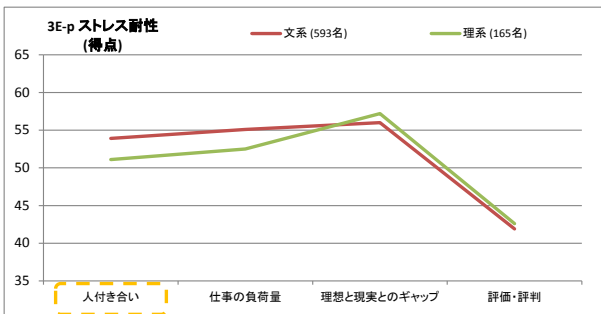
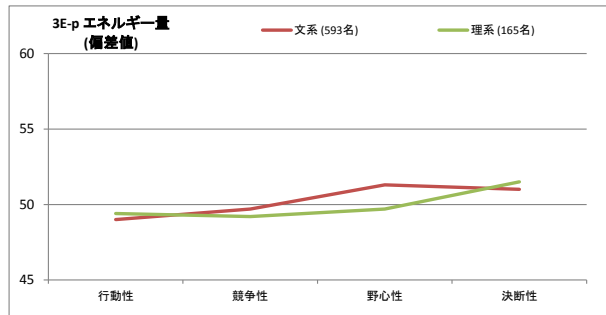
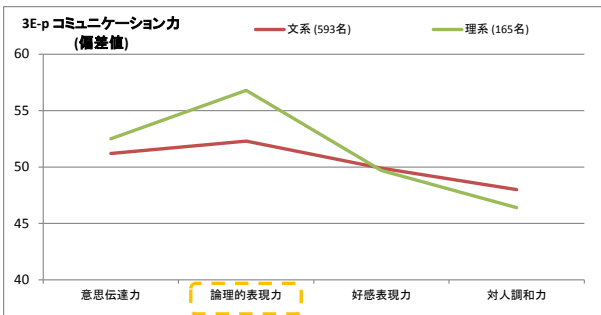
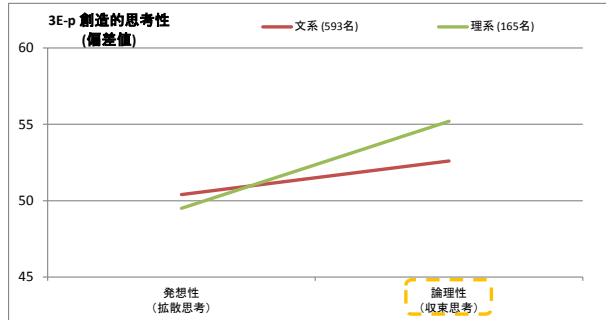
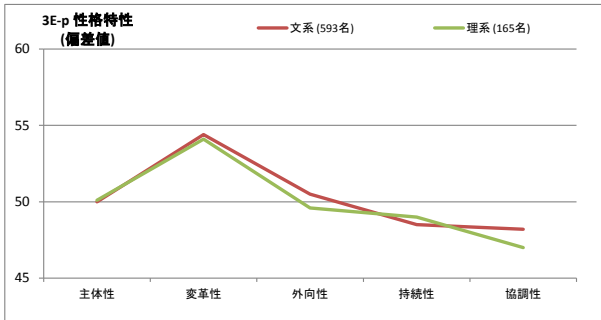
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生の男性は「主体性」「論理的表現力」などが高く、女性は「協調性」「対人調和力」が高い
 インターンシップ希望学生の男女別傾向を見ると、男性は「主体性」、「論理的表現力」、ストレス耐性の「評価・評判」、エネルギー量全般などが高く、女性は「協調性」、「対人調和力」、ストレス耐性の「人付き合い」(周囲の人の考えや気持ちを受け入れる)、キャリアタイプ指向性の「私生活重視」、「安定指向」などが高い結果になった。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生において、文系は「人付き合い」、理系は「論理的表現力」などが高い
 インターンシップ希望学生の文理別傾向を見ると、文系はストレス耐性の「人付き合い」が高く、理系は「論理性(収束思考)」、「論理的表現力」、職務適性の「知識を深め、探求していく」、「合理的に物事を進める」が高い結果になった。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。